

## 脱炭素・持続社会研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の評価・ 質問など	<p>アマゾンの熱帯雨林の成果について、一部温暖化を過大評価するモデルについては注意が必要というメッセージは受け入れられやすい。この基準で「はじかれる」モデルは、所謂ホットモデルに限定されるのか、限定されるとすれば、そうしたモデル結果も昇温量でノーマライズすれば炭素循環の結果自体は使えるものなのか、示唆がほしい。</p>	<p>信頼性の高いモデルの外にあるモデルは、過去再現実験において気温上昇が過大評価されるホットモデルである。気温上昇あたりの炭素循環の変化に関しては、過去再現実験における気温上昇とは良い相関がなく、予測不確実性に制約を与えることができない。つまり、ご指摘の通り、ホットモデルの信頼性が低いとは言い切れないので「はじかれる」ことはない。</p>
	<p>世界各国、とくにアジア諸国の温室効果ガス削減についてのモデルの結果から、より大きな削減努力が必要との結論を得、さらにはアジア各国政府にも科学的根拠が提供され、大変重要かつ優れた成果。</p>	<p>評価して頂きありがたい。研究成果を実効性のあるものに高めていきたい。</p>
	<p>PJ3 では各種政策が与える波及効果を、被影響集団の特性ごとに評価する枠組みを開発し、現世代内のコンフリクトのみならず、将来世代とのコンフリクトも包摂して可視化されており、大変興味深い。</p>	<p>評価して頂き、ありがたい。最終年度に向けてさらなる成果が得られるように取り組んでいく。</p>
今後への期待 など	<p>今後の脱炭素社会シナリオの構築に向け、地球規模から国スケールといった空間・時間の視点から重要な研究に体系的に取り組む、特筆すべき成果も多い。今後、グリーン水素（再生可能エネルギーにより生成される水素）を組み込んだシナリオの研究成果の発信も期待する。</p>	<p>評価して頂きありがたい。 水素については、電化とあわせて様々なシナリオの検討が可能となるので、水素の導入に向けて判断材料となる定量的な結果を提示していきたい。</p>
	<p>脱炭素や持続的社會を考へる際の様子な角度から研究を行い、今後の進め方に関して重要な知見が得られている。特に、農業部門からの排出対策に関する知見、タイの研究結果など注目されるが、今後のアジアの脱炭素社会の確立に生かしていくために、関係機関との連携が見えるような取り組みに繋がることを期待したい。風力発電の可能性など、まだ利用しきれていない技術があることを示すことは大変重要。</p>	<p>ご指摘いただきありがたい。関係機関との連携の見える化や資源のポテンシャルの評価は、研究連携の枠組みや対策の可能性を広げることにもつながると考えているので、今後もさらに取り組んでいきたい。</p>

<b>脱炭素・持続社会研究プログラム</b>
------------------------

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について の 評 価 ・ 質 問 など	脱炭素社会、持続可能な社会という未知の社会を確立していくための極めて難しいプロジェクトと思われるが、貴重な成果を数多く挙げている。他のプロジェクトの連携や、他の機関、組織との連携の必要性が高く、社会や他のプロジェクトの成果に合わせた研究が求められる。	評価して頂きありがたい。対象分野が広いので、他との連携は必須と認識しており、次期中長期計画も見据えて、成果の発信や研究協力を進めていく。
今後への期待 など	ネイチャーポジティブとの連携は今後ますます重要になってくるだろう。推進費における脱炭素とネイチャーポジティブを両立させるシナリオの検討に加え、多方面での連携の検討を進めていただきたい。	ご指摘ありがたい。今中長期計画で取り組める内容は限られるが、次期中長期計画も見据えて、研究を進めていく。
	この課題の重要性を鑑み、今後は、GX 会議など、環境省を越える政策にも入っていけるよう、したたかな戦略を持つことを期待したい。	「したたかな戦略」に向けては、多くの外部有識者のご知見を頂きたく、ご指導の方お願いしたい。
	脱炭素で持続可能な社会を構築するための物質の役割を定量化（モデル化）するとともに、ロードマップまで達成できる見込みが大いにある。	評価して頂きありがたい。ロードマップのとりまとめに尽力していく。
	継続的に多くの研究発表を行うだけでなく、アジア太平洋統合評価モデル（AIM）の様な皆が共有できるプラットフォームを継続的にアップデートしている。ただ、取り組む分野が多いのでやや人員不足感がある。スタッフの増強をすべきではないか。	評価して頂きありがたい。人員不足は、長期的にどのような分野に取り組むことが有効か、優先順位を議論するとともに、外部機関との連携も含めて対応していきたい。
	2030、2050 年に向けた CO2 排出削減に注力した上で、並行して、非エネルギー系での排出削減、農業部門の CH4、亜酸化窒素（N2O）の排出削減の検討は進めていただきたい。将来世代考慮制度に関する政策提言および、産（官？）学連携で、各環境分野の取組を統合的に解決していくことは重要であり、主導的に推進してほしい。	ご指摘ありがたい。非エネルギー起源のガスも含めて脱炭素社会の実現に向けたロードマップを提示する予定である。将来世代考慮制度ならびに産学連携の統合アプローチについては、主導的に推進し、さらなる成果につなげていけるよう取り組んでいく。